

408) じんちょうげ 沈丁花香るとき

沈丁花香るとき	思い出はさすらう
ひとつ傘手をつなぎ	あてもなく歩いた日
温もりがおたがいの	心まで伝わった
いつまでもいつまでも	忘れない白い花
沈丁花香るとき	思い出はときめく
瞬間を信じあい	瞬間を愛しあい
夢のなか <small>いと</small> 愛しさが	ありありと駆けめぐる
沈丁花香るとき	思い出はためらう
学び舎をあとにして	<small>たびだち</small> 出発を迎える日
図書館の片隅で	泣いていたあの瞳
沈丁花香るとき	思い出は果てなし
すぎさりし歳月の	輝きを追いかけて
美しい面影に	もう一度出逢いたい
いつまでもいつまでも	忘れない匂う花